2024年度　3年次編入学選抜　「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
日本画		持ち込み作品の解説やコンセプト、作品の解説。 また、多摩美に入学したらどのような作品づくりをしていきたいか、自主的に話すことができるかを重視しました。	●
油画		提出した作品が該当学年に相当する技術力、表現力を持ち得ているか、大学編入後のヴィジョンはあるか、普段どのような意図で制作しているのか、本学油画専攻を選んだ理由が明確かどうかなど、総合的に判断して採点を行った。	●
版画		3年次編入面接試験では、現在までの制作研究内容を含む提出作品やポートフォリオを前に、専任教員との質疑応答の中で以下の点をポイントとし評価しています。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか　（外国人の受験生） ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼンカ＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	×
彫刻		作品と作品ファイルのみで審査するため、用意された質問（美術以外の関心・最近見た展覧会について・多摩美を選んだ理由・将来の展望）などに加え、気がついた教員が適宜作品について追加質問をした。 ここでも基本的には「入学後にどれだけ伸びるか？」が審査の基準である。 ・入学後にどのような制作をしたいか ・卒業後の展望 ・美術以外に関心のあること	●
工芸		・本大学、工芸学科への編入理由と志望動機の確認。 ・持参資料による研究内容の確認。 ・進路、将来の展望等の確認。	×
グラフィック デザイン	・理解力　問題の把握、理解が正しいか ・伝達力　問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力　問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力　構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性　　デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・３年次に相当する能力を有するか	・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による描写力、色彩・構成力の基礎的造形力の評価	●
プロダクト デザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイル デザイン	モチーフの植物は、オーストラリアで育つユーカリ種のテトラゴナのアートフィシャルです。 主にクリスマスシーズンで使用されるドライリースなどの素材として流通している植物で、白い粉の吹いた実が特徴の肉厚で大ぶりな葉を持ち、 1本でも存在感があります。実物と見劣りしない大変よく似せた作りですが、よく見ると茎と葉の接合部など自然では見られない人工物らしい形があります。 今回の出題では、受験者が①細部の特徴を見逃さない発見力。②自然物を模した人工植物のモチーフにある特徴を見出す観察力。③リピートすることで空間に動きを与えるパターン力④空間に質を提供する造形表現力を課しています。また並行して⑤色調は空間に性質や質感を与える重要な要素の一つのため大切な評価基準としています。受験者は、このような要点をふまえながらカーテンを想定したテキスタイルパターンでどういった空間表現を提案できているかの判断を行いました。	初段では、質問を通じこれまで学んできたことや、本学に編入する意思を持ち始めた理由などからはじめ、修学に対する熱意や編入を試みる客観性などの本人の姿勢を観ました。そして、持参した作品や答案した実技試験の内容について自己評価を話していただきました。これらを合わせながらテキスタイルデザインを学ぶ上で主に思考力、表現力、技術力を評価ポイントとし、且つ持参作品と実技試験の評価も加えた総合評価をおこないました。	●
環境 デザイン	環境デザイン学科が対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。 その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行や広がりを伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	下記のポイントを重視しています。 ・編入学志望理由が明確かつ適切か ・本学科の教育内容を理解しているか ・授業への取り組みの意欲があるか ・本学の2年次までに相当する学力を有しているか	×
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース		１．作品が学部2年次終了レベルの品質であるか ２．作品のプレゼンテーション力、対話・コミュニケーション力は的確か ３．入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ４．卒業後、デザインに対するヴィジョンがあるか ５．情報デザイン分野への専門性を理解しているか	×
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるのにふさわしい能力があるかという点が判断基準になります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	芸術学科の特性に対する理解度、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意などを考慮しながら質問を行い、判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視　点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。	・　入学志望理由が明確であるか ・　本学科の内容を理解しているか ・　授業に必要な対話力・語学力はあるか ・　授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース			
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。 用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感心させ感動させる解答を期待します。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。ポートフォリオは、在校大学の課題作品、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。３年次編入相当の実技力と専門能力を有しているか、ゼミ授業への希望が明確かを判断します。作品面接では、提出された修得単位資料では判断しかねる、基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となります。	●

全学科共通小論文

受験生が２年次であると設定し、約２年間の学習、経験を見越して、そこにレベルを合わせた出題となっている。

「美術史」としているが、ここにデザイン史、建築史など独立した分野を含めてもよいし、置き換えて考えてよい。

これまでの制作において、美術史などで学んだことを、どのように自分のものとしてきたのか。どのように実際の制作に生かしてきたのか。そしてそのことをどのようにとらえ、考えてきたのか。そこを問う。
過去の表現やアーティスト、クリエーターの生き方に、大きく影響を受けた経験なども、採点の対象とする。

その上で、
◯文の構成が整っており、考えを的確にまとめ、小論文の体裁が整っているか
◯美術・デザインに対する興味・関心が高いか
◯大学における教養教育を修得する上で３年次に相当する能力を有しているか
◯出題に対して真摯に向き合っているか
などの基本能力を問う。

ただし、美術史からは何も得るものがない、過去の作品には全く関心がない、などの回答については、その意図が十分記述されているかどうか、慎重に判断する。